

植物防疫情報第4号

平成 28 年 5 月 30 日
岡山県植物防疫協会
岡山県病害虫防除所

モモせん孔細菌病の防除を徹底してください！

岡山県病害虫防除所が5月20日に行った巡回調査によると、県南部におけるモモせん孔細菌病の発生圃場率は25.0%で、過去に本病の注意報を発表した平成17年5月20日の51.7%よりは低いものの、平年(4.9%)より高くなっています。本病については、本年すでに植物防疫情報第3号(平成28年5月13日発表)で、防除の徹底をお願いしているところですが、5月26日発表の広島地方気象台の季節予報(1か月予報)によると、今後1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、本病をやや助長する条件です。今後、**降雨が続くと本病の病勢が急速に進展**する可能性がありますので、下記の表を参考に梅雨入り前の防除を徹底しましょう。なお、殺菌剤による防除は予防散布が基本です。多発してからは効果が劣るので、圃場をよく観察し、発生を認めた場合には、早期の防除を心がけましょう。

1. 防除対策及び防除上の参考事項

- (1) 本病の発生は前年の伝染源量が大きく影響します。また、常発地や昨年発病を認めた圃場では、前年秋ごろに病原菌が感染し、春頃の気温の上昇とともに形成された春型枝病斑(スプリングキャンカー)や、そこから病原菌が雨滴で伝染した発病葉が果実への重要な伝染源となります。発病枝や発病葉は、見つけ次第除去し、処分しましょう。
- (2) 果実への感染を防止するため、早めに袋かけを行いましょう。袋かけは、薬剤散布後速やかに行いましょう。
- (3) 病原菌は葉や果実の開口部(気孔など)や傷口から侵入するので、風当たりの強い圃場では防風ネット等で防風対策し、病原菌の飛散を防ぎましょう。

【収穫7日前まで使用できる主なモモせん孔細菌病の防除薬剤】 (H28. 5. 26 現在)

薬剤名	農薬使用基準		
	希釈倍数	時期	回数
スターナ水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
バリダシン液剤5	500倍	収穫7日前まで	4回以内
マスタピース水和剤 ^{注1)}	1,000~2,000倍	発病前~発病初期	—

注1) マスタピース水和剤は生きた微生物殺菌剤であるため、単用が望ましい。また、夏期は冷蔵保存するのが望ましい。



図1 春型枝病斑(スプリングキャンカー)



図2 せん孔細菌病の発病葉及び発病果実

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようにお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。